

だれでも学力を伸ばすことができる！

いよいよ3年生が始まりました。中学校で学習する9教科すべて、思いっきり学習すれば、自分自身の可能性は大いに広がります。もちろん、次の進路先、高等学校進学に必要なことはもちろんですが、みなさんのように最もいろいろなことが吸収できる時期にこそ、様々な知識を身につけることができます。但し、一つだけみなさんに注意してほしいことがあります。それは、**学力を人と比べる手段に使わないことです。学力は比べるものではありません。学力は人によって異なります。**これまで小学校も含めて、8年間の積み重ねもあります。しかし、3年生に進級したみなさんは、「勉強が分かるようになりたい」「苦手な教科を何とかしたい」という思いをもっている人がほとんどだと思います。その一方で「大丈夫かな？」「どうせ無理なのかな？」と不安を抱いている人もいるかもしれません。いずれにしても、まだ1年あります。今後の頑張り次第で学力は必ず向上することみなさんの先輩達が身をもって体験しています。

下の表を見てください。数年前の卒業生2名の各学年の年間評定です。

A君

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	合計
1年生	3	2	2	2	1	2	3	2	2	19
2年生	3	3	3	3	3	3	4	3	3	28
3年生	3	4	4	3	3	3	4	3	4	31

B君

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	合計
1年生	2	2	1	2	2	3	3	3	2	20
2年生	2	1	1	2	1	2	3	2	1	15
3年生	3	3	3	3	3	3	4	3	2	27

この二人の生徒の3年間の学力向上には理由があります。A君は、中学校に入学してから、とにかく好きだということもありましたが、部活動を、熱心に取り組みました。それは、本当に努力の結果でした。そして、彼は、自分も努力すればこれだけ伸びるんだという確信を持ちました。2年生になってからは、三中祭や体育大会でもクラスの仲間と一緒に楽しみ練習する姿が目を見張るぐらいになってきました。3年生になって、「授業中にA君が集中していない時間はない」と学年のすべての先生方が言われるぐらいになりました。

Bさんはどうでしょう。B君は、部活動や行事はある程度楽しんでいましたが、2年生まで

授業を集中して受けられず、寝たりすることもしばしばでした。3年生に進級すると、部活動はもちろんですが、体育大会や三中祭などの行事では、クラスを中心になるくらい、まわりの仲間にも声をかけながら頑張りました。そして、次第に、クラスの仲間も「Bさんは変わった」と言われるぐらい、信頼を得てきたのです。同時に、授業に対する姿勢も見違えるように変わり、まわりの仲間に分からないことをどんどん質問して、それまでの学習不足をカバーしたのです。

この二人に共通していることは何でしょうか？

それは、部活動や行事などに丁寧に取り組み、クラスの仲間と一緒に頑張り、まわりからの信頼を厚くしていったことです。実は、部活動や行事を通して、また毎日のクラスでの日常生活の中でも、まわりの仲間と安定した関係を築いていこうとすれば、学力も伸びることを示しています。さらに言えば、部活動や学校行事でなくても、何らかの形で、「人とつながる」ことができれば、自分が頑張るきっかけとなります。その逆はどうでしょう。いつも人の悪口が友達との話題になっている人、人をさけたり影で人に言えないようなことを言っている人、何かと言えば他人のせいや他のことのせいにする人、もっと端的に言えば、自分がされたらおおげさに言うのに、そのことを人にはするとする人。イライラしたり、急に不安になったり・・・自分に自信がない人ほど、人を攻撃します。こういった人たちは、毎日の生活が安定しません。したがって、学力も伸びません。そういう人は、中学校3年のこの時期にこそ、まわりの大人に冷静に自分の気持ちを整理してもらう必要があると思います。いつも楽しく裏表なく生き生きと頑張っている人は、必ず学力が伸びます。

安定した人間関係→頑張るきっかけ→学力向上！

また、現在の中学校における学習評価は、テストの点数だけではなく、日々の学習に向かう姿勢や学習活動の成果（実技や問題集、ノートなどを含む）も評価材料にしますから、真面目に学習すればそれが評価・評定に反映されることとなります。

各教科では様々な提出物を集めますが、提出された内容は人によって大きく変わります。一見して「提出期限の直前に、何とか間に合うように急いでつくった」とわかるものもあれば、「丁寧にコツコツと取り組んだ」ものもあります。どちらの方が力がつくと思いますか？

課題を出す目的は「学力を高めて欲しい」のであって、「提出・点検」は課題に取り組んでもらうための手段です。

しかし、人によっては「提出すること」を目的と勘違いしている人もいます。勘違いしていても、課題に取り組んだ結果として、学力が向上すればいいのですが、そうならない例が多く見られます。

一つの例として、「試験前に試験範囲の問題集をやって、試験後に提出しなさい」という指示を受けて、提出日になってから（つまり試験が終わってから）必死に問題集をやる人を見たことがあります。試験が終わっても、学力を向上させる必要はありますから、意味が無くはありません。でも、「もう少し早くやればいいのに・・・」という感想を持ちます。

もちろん、提出を忘れてたり、あきらめるのは「意欲を示せない」こととなります。

期限を守り内容のある提出物を出す→学力向上！